

3年 体育科学習指導案

授業者 茂津目 遼

1. 単元名「SOUZOU 探検隊～想像から創造へ、動きでつなぐ～」

(F 表現運動 ア 表現)

2. 単元の目標

- 自身のイメージや思いを、全身を用いてつながりや変化のある動きで即興的に表現することができる。
[知識及び技能]
- 「何をどのように表すのか」という視点で自他の動きを捉え、動きをつなぎ重ねて、一つのながれとして感じられる表現へと高めるために動きを工夫したり、考えたことを他者に伝えたりする。
[思考力、判断力、表現力等]
- 仲間と関わりながら表現することの楽しさを感じ、互いの思いや表現を認め合い、自分らしく表現しようとする。
[学びに向かう力、人間性等]

3. 子どもと教材

(1) 子どもについて

本学級はクラス替えを経て、今まさに新たな関係性や学級の土壌を構築しようとしている最中である。その中で、多くの新しい出会いのある3年生の学校生活を主体的かつ協同的に頑張ろうと高い意欲をもっている。例えば、運動会の団体種目である大玉運びでは、少しでもタイムを縮めようと、男女関係なくチームを編成し、自分たちで動きを試しながら改善を重ねてきた。動画を撮影して動きを振り返り「どうすればもっと速くなるか」を考え続ける姿や、タイムが向上した際に全員で喜び合う姿からは、仲間と共に創り上げていこうとする意識の高まりがうかがえた。また、話し合いにおいても、中心となる実行委員が事前に目標タイムを設定し、計画的に活動を進めようとする姿が見られるなど、自ら考え行動しようとしたり、協同的に取り組もうとしたりするよさがあらわれている。特に、活動の中で生まれた課題に対して「もっとよくしたい」「次はこうしてみたい」と自分たちなりに考えを出し合いながら動こうとする姿には、学級としての前向きさや、仲間と共に活動を創っていこうとする力強さがあると感じている。

上述のように主体的に活動する姿が見られる一方で、全体の方向性が一致していないまま活動が進んでしまう場面も見られる。例えば、1年生との交流会や実習生を迎える会に向けた話し合いでは「何のために話し合うのか」「何を優先して決めるのか」といった方向性が十分に共有されないまま議論が進み、考えがすれ違ってしまいうことがあった。それぞれが異なる思いや意図をもって発言しているものの、それらが十分に共有されないまま議論が進むことで、話し合いが停滞する様子も見られた。さらに、自分の考えを発信する子どもがいる一方で、その考えを受け止めながら自分の考えと結び付けたり「自分はこう考えるのか」を改めて問い直したりする姿は、まだ十分には見られていない。そのような子どもにとって、互いに思いや考えを共有しながら共に活動を創っていく経験を積み重ねていくことは大きな意味があると考えられる。子どもは考えをもっていないわけではない。むしろ子どもは、出合う様々なものに対して一人ひとりが「もっとよくしたい」という思いをもち、自分なりの考えをもっている。だからこそ、互いの思いや意図に目を向け、それらを結び付けながら、一つの方向へと表現や活動を創り上げていく経験を重ねていくことで、子どもたちのもつ協同的に学ぶよさが、さらに発揮され、磨かれていくことを願わずにはいられない。

表現運動は、感じたことや想像したことを全身で表しながら、仲間と共に一つの世界を創り上げ、その世界に入り込みながら楽しむことに大きな魅力があり、単に動きをそろえたり、正しく伝えたりすることを目指す運動ではない。自分一人では思いつかなかった動きや世界が、他者との関わりの中で広がったり変化したりしていくことや、その場の空気や流れに身を委ねながら、即興的に表現が生まれていくことにおもしろさがあると考えられる。また、表現する側だけでなく、みる側もその世界に入り込みなが

ら関わることで、共に表現を創り続けていくことができる点も、本単元において大切にしたい価値である。さらに、表現運動では一人ひとりの感じ方や動きの違いが、そのまま世界の広がりや表現のおもしろさにつながっていく。自分とは異なる感じ方や動きに出合い、それらを受け止め合いながら表現を創っていくことに、本単元ならではの魅力があると考えます。

本単元では、学級のもつ「仲間と共に創り上げようとするよさ」を生かしながら、互いの思いや意図を共有し、一つの表現として創り上げていく経験を大切にしたい。その中で子どもが、互いの感じ方や動きにふれながら、一人では生み出せなかった世界を仲間と共に創り上げていく楽しさや、表現の中に没入していくおもしろさを味わい、一人ひとりがもつ主体性、学級のもつ協同的に学ぶよさがさらに豊かに発揮されていくことを期待している。

（２）教材について

本単元で扱う表現運動は、感じたことや想像したことを全身で自由に表しながら、仲間と共に一つの世界を創り上げていくことに魅力のある運動である。決められた動きを再現するのではなく、題材やその場の状況から瞬時に生まれたイメージをもとに、動きが即興的に生み出されたり連続的に変化したりしていく点にも大きな特徴がある。ときには、他者との関わりによって、そのイメージや動きが変容していくだろう。今回設定する運動特性は「自身で想像したものや感じたものになりきるとともに、仲間と即興的に創った動きを自由に表現すること」とした。ここでは、生まれた表現を個にとどめるのではなく、仲間との関わりの中で動きをつなぎ、重ね、意味付け合いながら一つの表現へと創り上げていく過程を重視していく。

本単元「SOUZOU 探検隊～想像から創造へ、動きでつなぐ～」は、子どもがイメージを広げやすく、かつ多様な動きを引き出すことができるものにしていきたい。“探検”という言葉からは、未知の世界への期待や不安、発見や驚きといった様々な感情や場面をイメージするだろう。子ども一人ひとりが異なるイメージをもつことができるため、それぞれの想像を出発点として動きを生み出しやすいはずだ。さらに、本単元の特徴は個々のイメージが他者との関わりの中で連鎖し、新たなイメージや動きを創造していく点にある。一人の子どもの動きや表現が仲間に影響を与え、そこから新たな動きや表現が生まれる。このような「思いつきが想像へ、想像が創造へ」と広がっていく過程を通して、動きは絶えず変容し続けていくだろう。

単元序盤では、単元を通して用いる「△△になりきって、□□する（される）」といった構成の「SOUZOU カルタ」を紹介する。カルタを見てすぐに動きを表すようにすることで、子どもはそのカルタからイメージを膨らませ、その場で感じたことや思いついたことを身体で表しやすくなると考える。また、仲間の動きを見合う中で「そんな表し方もあるんだ」と新たなイメージに出合い、一人の思いつきがさらに別の想像へと広がっていくだろう。また「料理」や「洗濯」といった身近な生活を“探検”の場として意図的に設定することで、子どもは動きの想像と具体化がしやすくなると考える。例えば「洗濯物」一つをとっても「洗う」「絞る」「干す」「畳む」など、様々な場面やそれに伴った動きに細分化することができる。教師は、そうした場面の違いや状況の変化に子どもが目を向けられるように関わることで、同じ題材であっても多様な動きや動きの質が生まれることに気付けるように支えていきたい。さらに、料理を探検の場とした「卵になりきってかき混ぜられる」といった題材に対して、かき混ぜるときに使用するものに変化を加え「さいばしだったら？」「ミキサーだったら？」などと、教師が場面や状況の変化を投げかけることで、子どもの動きは変容していくだろう。その中で「速い・遅い」「強い・弱い」「大きい・小さい」「硬い・柔らかい」といった多様な動きに自然と目が向いていくことを期待したい。

単元中盤では、こうした身近な生活を題材とした単元序盤での経験を基に「○○で、△△になりきって、□□する（される）」という世界そのものを仲間と共有しながら表現していくことを大切にする。さらに、身近な生活から「宇宙で惑星になりきって爆発する」「森で忍者になりきって戦う」など“ふしぎな世界への探検”へと題材を広げていくことで、子どもはより自由に想像を働かせながら、新たな世界を創り出していくだろう。その際、一人では成立していた動きであっても、仲間と関わることで、互

いの感じ方やイメージの違いに出合う場面が生まれ、豊かな表現につなげていくはずだ。

単元終盤では、これまでの“探検”の中で生み出してきた表現や世界をもとに、チームで一つの表現を創っていく活動を設定する。その際、完成された動きの再現を目指すのではなく、その場の関係や流れに応じて、動きを変化させながら即興的に表現していくことを大切にする。また、他チームの表現を受け止める場面においても、単に鑑賞するだけではなく、仲間が創る世界に入り込みながら、感じたことをもとに即興的に関わっていく機会を設けたい。そうすることで、子どもは互いの表現を認め合いながら、より自分らしく表現することができるだろう。

このように、本単元では“探検”という題材のもとで、思いつくこと、想像すること、動きに表すこと、他者と関わることなどにそれぞれ思考を巡らせながら、表現を創り続けていく過程を大切にする。

4. 本単元に願う『その子らしく学ぶ』

単元導入で表現運動に出合った子どもは、提示された動きを真似たり、仲間の動きを模倣したりする活動を通して、全身を使って表すことの楽しさに存分にふれていくであろう。初めは「どう動けばよいのか分からない」と戸惑う姿も見られるかもしれない。しかし、仲間の動きを真似たり「△△になりきる」といった活動をくり返したりする中で、子どもは少しずつ心と身体をほぐしながら、動くことそのものを楽しむようになるだろう。また「SOUZOU カルタ」を用いて、その場で感じたことや思いついたことを瞬時に身体で表していくことで、思いのままにまず動いてみようとする姿も見られていくはずだ。このような過程を通して、心と身体の両面がほぐれ、単元を通して大切にしたい「心身の解放」が促されていくと考える。その後の「料理」や「洗濯」など、身近な生活を“探検”として設定する場面では、子どもは自身の生活経験を想起し、それに基づいた表現をしていくだろう。「炒められる」「洗われる」「絞られる」といった場면을身体で表す中で「もっと熱そうに飛び跳ねよう」「グルグル速く回ってみよう」など、動きの速さや強さ、大きさ、質感にも自然と目を向けていくはずである。例えば「洗濯物になりきる」という題材であっても、洗濯物が洗われる動きを大きく揺れながら表す子ども、ぎゅっと強く絞られる様子を身体を縮めながら表す子ども、風に揺れながら干される様子をゆったりと表す子どもなど、子どもによって思い思いの表現をするだろう。このように、同じ題材であっても、一人ひとりの感じ方や着目する場面によって、異なる世界や動きが生まれていくはずである。また、混ぜられる卵になりきる場面においては「さいばしだったら?」「ミキサーだったら?」など、場面や状況が変化することで、同じ題材であっても動きが大きく変わっていくことにも自ずと気付くだろう。

単元中盤では、子どもは「〇〇で、△△になりきって、□□する（される）」という世界を仲間と共有しながら、自分たちの表現を広げていく。例えば「宇宙で惑星になりきって爆発する」という題材に対して、ある子はゆっくり大きく回転しながら重たい惑星を表したり、ある子は突然身体を大きく広げながら爆発の瞬間を激しく表したりするはずである。また、その動きを見た仲間が「その爆発に巻き込まれる星をやりたい」「初めはもっと静かな宇宙の感じがいい」と反応し、一人の表現から新たな場面や動きが生まれていくだろう。さらに「森で忍者になりきって戦う」という題材では、素早く駆け抜けたり、急に止まったり、低い姿勢で隠れたりしながら「どう動けば忍者っぽく見えるかな」と考え始める姿も見られるはずである。「もっと静かに動いた方がいい」「今の動き、敵に見つかりそう」など、仲間と感じ方を伝え合う中で、子どもは動きの速さや強さ、間の取り方、身体の使い方に目を向けながら、仲間と共に“なりきる”ことに夢中になっていくはずである。このように、単元中盤では、一人の思いつきや動きが仲間との関わりによって広がったり変化したりしながら、子どもはどっぴりと題材の世界に没入し、その中で自ずと自分たちの動きにも目を向けていくだろう。そして、互いの動きや感じ方にふれながら、一人では生み出せなかった表現や世界をチームメートと共に創り上げていくことにおもしろさを感じていくはずだ。

単元終盤では、これまでの“探検”の中で生み出してきた表現や世界をつなげ、よりダイナミックな表現へと向かっていく。例えば「宇宙で洗濯物になりきって洗われる」といったように、身近な生活とふしぎな世界が混ざり合い、子どもならではの世界が生まれていくような題材を用意する。ある子は無

重力の中でふわふわ漂いながら洗われる様子を表したり、ある子はブラックホールのような洗濯機に吸い込まれていく様子を仲間と関わりながら表したりするかもしれない。また、仲間の表現に入り込みながら「自分もそこに行きたい」「その世界に入りたい」と即興的に関わる姿も見られるだろう。このような過程を通して、子どもは表現を「発表するもの」だけではなく「仲間と共に創り続けるもの」として捉えることができ、表現の楽しさをより感じるができると思う。

以上のように本単元を通して、仲間の動きや感じ方にふれながら、一人では生み出せなかった世界を共に創り上げていく楽しさや、表現する世界に没入していくおもしろさを味わうことを期待している。本学級の子どもがもつ「仲間と共に創り上げようとするよさ」が、表現運動を通してさらに豊かに発揮されていくことを願っている。

5. 単元構想（全6時間扱い／本時は第⑤時）

＜教師の投げかけ＞

子どもの表れ

最終時における子どもの表れ

○教師の働きかけ

① ＜まねっこ探検してみよう＞

- ・俺のこのポーズはおもしろいよ
- ・B男のポーズを真似したい

- ・私のポーズを真似てくれて嬉しい
- ・いろいろな人のポーズを真似しよう

○仲間と共に身体を使って表すことの楽しさを感じることができるよう、仲間とポーズや動きを模倣し合う活動を設定する。

＜ポーズだけでなく動きもつけてみよう＞

- ・こうやって動いたらおもしろいよ
- ・動きをつけた方が楽しいな

- ・速くしたら逃げてるみたい
- ・動きがあると真似しづらいね

○正解を気にせず思いついたことを表すことができるように、多様な表現を価値付けながら、自由に試すことのできる雰囲気をつくる。

② ＜「SOUZOU カルタ」で、いろんな動きをやってみよう＞

- ・忍者と言えば速い動きだ
- ・宇宙はゆっくりな動きだよ
- ・フライパンの上は飛び跳ねよう

- ・「洗われる」は速く回転する
- ・ジャングルってどうやって動くの
- ・私はカメをやりたいな

○子どもが即興的な動きのおもしろさに目が向くように、考える時間を与えすぎないようにする。

＜「SOUZOU カルタ」をやってみて、どうだったかな＞

- ・いろいろな動きがあって真似したくなったよ
- ・A男の宇宙の動きがおもしろかった
- ・ぼくとH男で洗濯物の動き方が違ったな

○多様な動きに目が向くように、速さ・強さ・大きさ・質感などに違いが生まれやすいカルタを用意する。

③ ＜身近な世界へ探検しよう＞

- ・混ぜられる卵は寝転がってバタバタしてみるぞ
- ・ワニは手で口を大きく開くようにする

- ・干される洗濯物はどう表すのかな、風にゆれている感じかな
- ・ホコリになりきるのは難しいな
- ・料理ってこんな動きがあるんだ

○共通の題材に対する表現の違いに目が向くように、それぞれの表し方の違いを取り上げ、価値付ける。

＜みんなで同じ世界に！スピード探検 NO. 1＞

- ・俺は洗われる動き、B男は干す動きをやってC子は畳まれる流れにしよう
- ・僕はゴリラのパパ、C子はママね

- ・お話ぼく順番を考えてやってみよう
- ・卵焼きができるまでの動きを考えよう、割られて、炒められて、巻かれて…

○動きの速さ・強さ・大きさ・質感などに目を向けながら表現を広げることができるように場面や状況の変化を投げかける。

- ・一人より一緒の方がいろんなものになりきれる
- ・三人で役割分担をしたら楽しいお散歩の様子があらわせた
- ・G子のグループの料理のお話がおもしろかった
- ・思いつきやちょっとした相談でも楽しくなりきれたね

○A男が「どうしたらなりきれるか」を仲間と共に考えることができるように、自分の考えを伝えるだけでなく、仲間の考えを聞いて表現に取り入れることを促す。

④ ＜ふしぎな世界へ探検しよう＞

- ・もっと宇宙っぽくゆっくり動こう
- ・台風はぐるんぐるんだ
- ・ジャングルは速く走ってみよう
- ・海はゆっくりで泳いだ方が伝わる

- ・見えない敵がいる感じにしよう
- ・太陽の動きをやろう
- ・さっきとはちがう世界になったぞ
- ・F子は森にいるみたいな動きだ

<みんなで同じ世界に！！スピード探検 NO. 2 >

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくがブラックホールをやるからみんな吸い込まれて ・惑星同士でぶつかって爆発してみよう | <ul style="list-style-type: none"> ・敵を同じにしてみんなで戦おう ・宇宙人と戦う設定にしよう ・台風が過ぎ去った後はゆっくりね |
| <ul style="list-style-type: none"> ・一人のときよりも世界が広がった ・同じ世界にするの難しい | <ul style="list-style-type: none"> ・つなげると意味が変わる ・みんなで合わせられて楽しい |

⑤ (本時) <自分たちの探検をつくろう！>

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ジャングルで料理だとそのまま火で焼かれるから熱い感じにしたい ・宇宙で洗濯はゆっくり動かないと ・台風の中で掃除なら、ふっとばされるようにくるくる回りたいな | <ul style="list-style-type: none"> ・ふわふわ回りながら洗われたい ・台風の中でホコリになるには速く走りながらジャンプして飛ばされているようにしよう ・私たちだけのお話をつくろう |
|---|---|

<みんなで同じ世界に！！！！スピード探検 NO. 3 >

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・木の実を取りに行くところからやってみよう ・速く動くと爆発にみえちゃうからもっとゆっくり動こうよ | <ul style="list-style-type: none"> ・バラバラになっちゃったからもう一度役割を確認しよう ・みんなで走り抜けた方が台風が伝わるはず |
| <ul style="list-style-type: none"> ・つながるとお話になった ・役割を決めてなりきったから自分たちだけのお話できた | <ul style="list-style-type: none"> ・順番を考えないとバラバラになる |

⑥ <みんなで入りこめ！探検ワールド！>

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ここでブラックホールやりたいからみんな吸い込まれて ・H 子のグループのゴリラたちがみんな楽しんで掃除している ・みんなで作るの面白い | <ul style="list-style-type: none"> ・最初は静かな宇宙でみんなが入ってから爆発して洗濯物は飛ばされる ・宇宙じゃなくて今度はジャングルでやってみたらどう？ ・たくさん来てくれてうれしい |
|--|--|

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・考えるより先に動いて、なりきることが楽しかった ・最初は静かな宇宙にしたいと思ったけど、グループで話して急にブラックホールが出てくるのもおもしろかった ・どう動けばいいか分からなかったけど、ふわふわ動いたり素早く動いたりしてなりきることができた ・自分だけで考えていたけど、みんなの動きが入った方がよかった ・友だちのグループに参加してみて宇宙にいるみたいだった ・同じ台風でもこんなに動き方が違うんだ |
|---|

○ふしぎな世界のイメージを共有できるように、場面や出来事(見えない敵・重力の変化・天候の変化など)を想起しやすいカルタを用意する。

○チームメートと世界を共有しながら「どうしたらなりきれるのか」を考えることができるように、互いの表現や感じ方を伝え合う場を位置付ける。

○これまで創った動きを生かしていけるように、動きの種類をいつでもみられるように掲示して残しておく。

○互いの想像をもとにチーム内で動きを考えられるように「どんな世界をつくりたいのか」を共有する場を位置付ける。

○A 男がチーム内で協同的に動きを創っていくおもしろさに目が向くように、チームで創った動きを称揚する。

○みる側も表現している世界に入り込みながら活動できるように、鑑賞するだけでなく参加して関わる場も設定する。

○これまでの学びを実感できるように、自分たちの表現の変化や広がりを目を向けて振り返るよう声かけをする。